

令和 2年度

事務事業評価表 (令和元年度 の実績評価)

記入年月日
令和 2 年 4 月 15 日

事務事業名		軽度生活支援事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	010602000020
						単独/補助	単独		
政策体系		政策体系上の位置付け						所属課	040501
総合計画の施策名		0106 高齢者福祉の推進							高齢福祉課
政策名		01 子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり						課長名	
施策名		06 高齢者福祉の推進						グループ	高齢福祉グループ
手段名		02 ②高齢者福祉サービスの充実						担当者名	
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	03	01	02	02	00	老人福祉総務事業		
						単年度繰返し (平成17年度~)			
						☞ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
法令根拠 桜川市介護予防・生活支援事業実施条例、桜川市介護予防・生活支援事業実施条例施行規則									

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
高齢者が要介護状態になったり、状態が悪化したりすることがないように自立した生活を確保するための介護予防施策や必要な支援を行う事業である。日常生活に多少の支障をきたしている高齢者に、週1回60分を上限としてヘルパーを派遣している。事業の実施については、桜川市社会福祉協議会に業務委託している。	①委託契約 ②委託料支払い (年2回) ③委託料清算 ④利用者負担金の納入

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	03年度 (目標)	04年度 (目標)
①委託契約 ②委託料支払い (年2回) ③委託料清算 ④利用者負担金の納入	サービス提供回数 (岩瀬・大和地区)	人	107.00	89.00	144.00	144.00	144.00
	サービス提供回数 (真壁地区)	人	49.00	33.00	96.00	96.00	96.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	03年度 (目標)	04年度 (目標)
ひとり暮らし高齢者等	ひとり暮らし高齢者数	人	1,084.00	1,203.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	03年度 (目標)	04年度 (目標)
ヘルパーを派遣して家事援助を行うことで、自立した生活の確保を図る。	延べ利用者数 (岩瀬・大和地区)	回	31.00	22.00	36.00	36.00	36.00
	延べ利用者数 (真壁地区)	回	13.00	12.00	24.00	24.00	24.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移		30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	期間限定総投入量
投入量	事業費	国庫支出金 千円	0	0	0
		県支出金 千円	0	0	0
		地方債 千円	0	0	0
		使用料・手数料 千円	39	31	60
		その他 千円	0	0	0
		一般財源 千円	286	968	478
	事業費計 (A) 千円	325	999	538	
	正規職員従事人数 人	1.00人	1.00人	1.00人	

事業費の内訳	01年度事業費 実績 (千円)		02年度事業費 予算 (千円)	
	13 委託料	999	13 委託料	538
		合計	999	合計

事務事業名	軽度生活支援事業	事務事業No.	10602000020	所属課	高齢福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ ひとり暮らし高齢者等が自立した生活を確保するために実施しているが、利用者数が横ばい状況である。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 受託者の桜川市社会福祉協議会から「業務に従事するボランティアの確保が難しい」との意見が挙がっている。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

現 状 維 持		評 価 項 目	
現 状 維 持	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	ヘルパーを派遣して家事援助を行うことは、高齢者の自立した生活を確保することになるため、高齢福祉の推進に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	介護保険サービスを受けていないひとり暮らし高齢者等に家事援助を行う事業は、市しか提供できないため、妥当である。
有 効 性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	利用者数が横ばいであり、今後増加させるため広く周知を行っていく必要がある。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	介護保険サービスを受けていないひとり暮らし高齢者等に家事援助を行う事業がほかにはないため、廃止や休止はできない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない	介護保険サービスを受けていないひとり暮らし高齢者等に家事援助を行う類似事業がないため、統廃合や連携はできない。
効 率 性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	事業費はヘルパーの人件費であるため、これ以上の削減余地はない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	対象が市内のひとり暮らし高齢者等であり偏っておらず、公正、公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	利用者数が横ばいであるため、周知方法について受託者と協議する必要がある。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 利用者数を増やすため、周知方法について受託者と協議する必要があるが、業務に従事するボランティア数にも限度があり、利用者数とボランティア数のバランスを取りながら事業を実施していく必要がある。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(6) 事務事業優先度評価結果		成果優先度評価結果 ⑧																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続 (現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続 (改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>